6 月 19 日のメッセージ

聖書：使徒言行録　4：　13－31

「思い切って大胆に」

聖霊に満たされた弟子たちは、喜びの知らせを告げる者へと新たにされました。自分一人の力では何もできなかったかもしれません。

しかし、彼らの内に働く聖霊が、彼ら一人ひとりを肯定し、自信を与えました。自分も救われた一人であるからこそ、その喜びを伝えなければならないとの使命に応えたのです。

イエス自身も一つところに留まることなく、必要とされる場所へと常に足を向けられました(「イエスは言われた。『近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのである。』」マルコによる福音書 1:38)。恵みを独占することなく、一人でも多くの者を救いに導くために働かれました。

しかし、全てが順風満帆だったわけではありません。イエスの前には常に壁がありました。律法学者たちやファリサイ派の人たちがイエスの一挙手一投足に目を光らせ、揚げ足を取ろうと身構えていました。

その中にあってなお、イエスは福音を告げ知らせられたのです。様々な障壁に屈することなく、恵みを語り続けられました。

一方、弟子たちの前にも多くの壁があります。例えば、あの素晴らしい聖霊降臨の出来事でさえ、驚き、怪しむ者がありました(「人々は驚き怪しんで……」使徒言行録 2:7)。ペトロとヨハネが人々に話している姿にいらだつ者がいたことは、何ら不思議なことではありません(「二人が民衆に教え、イエスに起こった死者の中からの復活を宣べ伝えているので、彼らはいらだち、二人を捕らえて翌日まで牢に入れた。……」使徒言行録 4:2-3)。

それでも、二人は諦めません。牢の中でも常に神に祈り続けたことでしょう。詩人が神に救いを求めたように(「わたしの魂に近づき、贖い／敵から解放してください。」詩編 69:19)。

なぜなら、神は絶望的とも思える状況下でもなお、救いを約束される方だからです。求める者には必ず報いを示される方だからです(「しかし、あなたたちは勇気を出しなさい。落胆してはならない。あなたたちの行いには、必ず報いがある。」歴代誌下 15:7)。

二人はその安心の中で前を向くことができました。名だたる議員たちや大祭司たちを前にしても、臆することなく神の恵みを、救いの喜びを証ししたのです(「そのとき、ペトロは聖霊に満たされて言った。『民の議員、また長老の方々、今日わたしたちが取り調べを受けているのは、……』使徒言行録 4:8-12)。

解放されたペトロとヨハネは仲間のところに帰ります。二人の話を聞いた仲間たちは二人に祈りを合わせます。

「主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語ることができるようにしてください。」(使徒言行録 4:29)

解放された喜びに留まることなく、さらに大胆に、新しい一歩を踏み出すことができるようにと祈るのです。

改めて、私も救われている一人であることを思います。聖霊を注がれている一人であることを思います。

厳しい社会情勢は続きます。しかし、そのような今だからこそ、大胆に神の恵みを語りたい。希望を分かち合いたいと思います。そして、私たちも「必要とされる場所へ送り出してください」と祈りたいのです。